

だいどうだいどう あらすじ

こども園で保育補助をしている還暦間近の早紀子は、今年発達に問題があるかもしれない三歳児の保育補助についている。

担当している京太郎はこだわりが強く、よく癇癢を起こす子どもだ。

独身の早紀子は数年前に母を亡くし、卒寿を迎える年老いた父親は、早紀子の自宅から一時間ほどかかる実家で独り暮らしをしていたが、最近体調を崩し、寝たきり一歩手前の状態にある。一人娘の早紀子には、父の介護が重くのしかかってくる。

ある日、担当している京太郎を迎えに来た祖父が、二十年以上前に不倫関係にあった利一郎だということが発覚する。利一郎は今でも早紀子のことをおまえと呼んだ。

漠然とした不安の中で生きる早紀子の、平凡な生活を巡るものがあり。